

25. 秋まき不断草の収量について

殿内正芳 清水明良

1. 目的

養鶏用の雑穀として秋まきの不断草の収量を知り馬草栽培の資料とする。

2. 方法

(1) 耕種概要

播種は9月11日で播中畦巾30cm 35cmを基肥として堆肥10a当2000kg 硫酸、過石各13.5kgを施用し除草栽培は9月~10月、4月に4回行った、播種量は10a当2Lを使用した。

(2) 調査方法

発芽後55日より収穫し5日間隔で7回刈取を行い、2番刈付1番刈付172日目より4回刈取を行った、刈取面積は4m²である、刈取量を計算し収量中の大部分を占めたと思われる茎葉を葉部と葉柄及葉巾を測定した、茎長は茎の両側各1cmの葉巾の部分と區別した。

3. 成績

(1) 収量 (4m²)

(1) 1番刈 (発芽9月17日、育成日数54日~84日)

刈取月日	全収量	葉量	茎量	枯葉量	全収量	葉量	茎量	枯葉量	全収量	葉量	茎量	枯葉量
11. 11	5.680 ^g	3,850 ^g	1,730 ^g	100 ^g	100	68%	30%	2%	100	100	100	100
・ 16	7.540	4,870	2,500	170	100	65	33	2	133	126	145	170
・ 21	8,300	5,100	3,020	180	100	62	36	2	146	132	174	180
・ 25	10,675	6,500	4,030	145	100	61	38	1	188	169	233	145
・ 30	11,100	6,310	3,980	810	100	57	36	7	195	164	230	810
12. 5	10,552	5,990	3,700	862	100	57	35	8	186	156	214	862
・ 10	12,330	7,600	4,000	730	100	62	32	6	217	197	231	730
計	66,177	40,220	22,960	2,977								
平均	9,454	5,746	3,280	428	100	61	35	4	166	149	190	428
1日平均	2,206	1,341	765	100								

収量は次第に増加したが葉量の割合は次第に低下した、平均収量は約9kgでその内容は葉量61% 茎量35% 枯葉量4%であるので平均収量は刈取初回の1.6倍であった。

(ロ) 2番刈 (1番刈后 171日 ~ 186日)

刈取月日	全収量	葉量	茎量	枯葉量	全収量	葉量	茎量	枯葉量	全収量	葉量	茎量	枯葉量
5. 1	8,193 ^g	4,740 ^g	3,111 ^g	342 ^g	100	58%	38%	4%	100	100	100	100
" 6	7,950	4,500	3,030	420	100	57	38	5	97	95	97	123
" 11	13,470	6,600	6,120	750	100	49	45	6	164	139	197	219
" 16	20,160	8,100	10,710	1,350	100	40	53	7	246	171	344	395
計	49,773	23,940	22,971	2,862								
平均	12,444	5,985	5,743	716	100	48	46	6	152	126	185	209
1日平均	3,111	1,497	1,436	143								

2番刈の可能な状態に發育するに日数を必要とし、1番刈の初回に等しい収量を得るに日約160日程度を必要とした。収量は次第に増加はするが茎量の増加が多く特に5月16日以降は急激に増加するため実用的価値は失われる平均収量は約12kgで葉量48% 茎量46% 枯葉量16%であった。

(ハ) 全期間の総収量

刈取	全収量	葉量	茎量	枯葉量	全収量	葉量	茎量	枯葉量
1番刈	9,454	5,746	3,280	428	100	61	35	4
2 "	12,444	5,985	5,743	716	100	48	46	6
計	21,898	11,731	9,023	1,144	100	54	41	5

(ニ) 刈取茎葉の状態

(1) 1番刈

刈取月日	茎長	葉長	計	葉巾
11. 11	10 ^{cm}	17 ^{cm}	27 ^{cm}	10 ^{cm}
" 16	13	16	29	12
" 21	16	20	36	15
" 25	16	20	36	13
" 30	15	20	35	12
12. 5	15	20	35	12
" 10	15	20	35	15
計	100	133	233	89
平均	14	19	33	13

(口)

刈取月日	茎長	葉長	計	葉巾
5.1	15 cm	18 cm	33 cm	11 cm
" 6	11	12	23	5
" 11	17	24	41	15
" 16	17	24	41	15
計	60	78	138	46
平均	15	20	35	12

(3) 10 a 当収量

(1) 1 番刈

刈取月日	全量	葉量	茎量	枯葉量
11.11	1.420 ^{kg}	963 ^{kg}	432 ^{kg}	25 ^{kg}
" 16	1.885	1.218	625	42
" 21	2.075	1.275	755	45
" 25	2.669	1.625	1.008	36
" 30	2.775	1.578	975	202
12.5	2.638	1.498	925	215
" 10	3.083	1.900	1.000	183
計	16.545	10.057	5.740	748
平均	2.364	1.437	820	107

(2) 2 番刈

刈取月日	全量	葉量	茎量	枯葉量
5.1	2.049 ^{kg}	1.185 ^{kg}	778 ^{kg}	86 ^{kg}
" 6	1.988	1.125	758	105
" 11	3.368	1.650	1.530	188
" 16	5.040	2.025	2.678	337
計	12.445	5.985	5.744	716
平均	3.111	1.496	1.436	179

(八) 全期間の総収量

刈取回数	全量	葉量	莖量	枯葉量
1番刈	2,364	1,437	820	107
2番刈	3,111	1,496	1,436	179
計	5,475	2,933	2,256	286

総括

秋まき不断草の収量を1番刈から2番刈について調査をした。

1番刈の育成日数は54日から84日間であって11月中旬が葉量の状態、枯葉量の状態等よりして最良の時期であった。

2番刈は1番刈後の発育が遅く刈取可能の状態に達するには160日程の日数を必要とし5月中旬より急激に軸の発育が良くなり、細切給与には不良の状態となり2番刈の刈取期間短く15日程である。

3番刈は莖葉が短小でしかも抽苔するため良好ではない(この時期は春まき小松葉で給与が出来る)

1、2番の総収量は10a当5475kgで内容の割合は葉量54% 莖量41% 枯葉量5%であった。

可食部は約3000kgであった。